

三島市の地域ブランド推進事業について

アナ： 「市長が語る 2016 三島」第11回の今日は、「地域ブランド推進事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 地域ブランド推進事業についてということですが、地域ブランドっていろいろありますよね。

市長： はい、一口に「地域ブランド」と言っても、観光面でのブランド、食文化のブランドというようにとても幅が広く、様々な切り口でのブランドがあります。三島市ではその中の一つとして、野菜のブランド化に力を入れています。

アナ： そういえば、最近、「箱根西麓三島野菜」という言葉を聞くようになりましたね。

市長： この「箱根西麓三島野菜」は、大変認知度が上がってまいりました。「箱根西麓三島野菜」と呼ばれるものは箱根の西側の標高50メートル以上で育てられた野菜のことで、きれいな空気とミネラルが豊富な土の中で育てることで、野菜そのものに甘みがあるのが特徴です。

アナ： 私も食べたことがあるのですが、とてもおいしいですね。

市長： 三島市が誇る野菜です。三島市の野菜は大量生産ではありませんが、丁寧に育てているということと、その種類が多いことが特徴となっていて、市場からとても高い評価を受けています。以前に比べて「箱根西麓三島野菜」の知名度が上がってきたこともあり、首都圏の宿泊施設や飲食店から仕入れをしたいとの引き合いの声がか次々とかかるようになりました。

アナ： 首都圏から引き合いの声がかかるなんて、すごいですね。

市長： はい。これからは、三島の野菜の品質がとても高いものであるということ年全国の多くの方々に知っていただくために、情報の発信やプロモーションにおいてさらに力を入れていきたいと考えています。

アナ： ブランド化に向けては、何か具体的な取り組みをしているのですか。

市長： 平成27年度から始まった新しい制度に、国の「地理的表示保護制度」というものがありまして、そこに登録してもらうことを目指して申請をしている野菜があります。

アナ： 地理的表示とはどういったものでしょうか。

市長： 簡単に言うと、国のお墨付きです。地域に根付き、昔から栽培されている産品で、品質管理がしっかりとしていて伝統のあるものが認定されます。

アナ： お墨付きをいただけたら、野菜の価値やブランドイメージが一気に高まりますね。

三島市からは何の野菜を申請したのですか。

市長： 三島馬鈴薯、三島甘藷、三島人参の3品です。JA三島函南様と一緒に登録を目指しています。

アナ： そのようなブランド化に向けては、いろいろな企業と協力して取り組んでいるのですか。

市長： はい。やはり、市の取り組みだけでは限界もありますので、生産者、JAなどの現場の方、商業者、専門家などと協力して取り組んでいます。具体的には、地域ブランド推進協議会を設立して、定期的に協議を行っています。

アナ： 協議会で何か計画していることはありますか。

市長： みしまコロッケに次ぐ、新たな商品開発を行っていきたいと考えています。今、どのような商品にするのか、協議会で話し合いを行っています。

アナ： どんな新商品ができるのか、今からとても楽しみです。

市長： ぜひ、楽しみにしててください。今や「みしまコロッケ」は三島ブランドとして人気定着していますが、この商品は生産者と商工業者が連携することで開発されたものです。生産者にはより品質の高い野菜を作る技術、商工業者には商品の開発力があります。それぞれの得意分野を活かすことで、より良い商品をつくり、ブランド化につなげていきたいと考えています。

アナ： 本日はブランド推進事業についてお話しを伺いましたが、三島の誇る野菜がブランドとして多くの皆さんに知っていただけることを期待しています。

市長： 企業や関係団体と協力しながら、新たなブランドづくりにも力を入れて取り組んでまいります。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。